

屋山太郎著「立ち直れるか日本の政治」海竜社 2010年6月24日刊を読む

武士道の精神を学べ

1. 武士道こそ日本人の倫理観

(1) 教育基本法の改正に伴って、日本では 2012 年度から「伝統と文化の尊重」を反映させるために、中学校で「武道」を必修化するほか和楽器の指導を充実させるという。敗戦によって「武士道」という言葉を使うのはばかられる世が続いたが、武士道こそ日本人を象徴する倫理観なのである。日本にいる時にはまったく気付かなかったが、外国で「日本人はキリスト教やイスラム教のような宗教がないのに、なぜそんなにモラルの高い社会を築けるのか」と尋ねられたことがある。のちに百十年前に新渡戸稲造が書いた『武士道』の序文に同じようなエピソードが書かれているのを読んだ。

(2) 武士道というと“戦闘精神”と思う人が多いが、武士道という概念が定着したのは戦国時代が終わったのちの話である。江戸の上期に武士道を体系化してみせた儒者・山鹿素行^{やまがそここう}は支配階級である武士は何も生産しないのだから身を修め、品格を高め、禁欲的・克己的精神で生きよと教えた。武士道には教典がない。1500 年位かけて日本人が自ら創り上げた精神の規範であり、道徳律だ。

(3) 柔道の創始者で講道館を開いた嘉納治五郎^{かのうじごろう}は「柔道は礼に始まり、礼に終わる」と説いた。青年修養訓には「自ら省みて素行を修め品格を高くし、外国人より尊敬を受けるようになる、それが真の愛国である」とある。極めて内面的なこの愛国の定義を私は好きだ。ふっとイチローを思い出すのだ。

2. 指導者に求められるのはストイックな精神

(1) 規制のない自由な経済活動を標榜^{ひょうぼう}した「新自由主義」の失敗は明らかだという。アメリカのビッグ 3 は存立さえ危うくなった。1963 年に GM の利益は日本の全上場企業の利益を合わせた額に匹敵していた。その仰ぎ見るような巨大な GM が 09 年、トヨタ社に追い抜かれ、それどころか、沈没しかねない危機の淵に立った。しかし GM の失敗は自由競争の失敗ではない。

(2) 5、6 年前のことだが、トヨタの奥田碩^{ひろし}会長に招かれて会食したことがある。当時、トヨタ社員の平均年俸がざっと 500 万円ときいて、社長の年俸はいくらか尋ねたところ「8000 万円程度だ」という。「ずい分安いのですね」というと、「これ以上もらったって使いようがないでしょう」とケロリという。ある社長にこの話をしたら「8000 万円は税込みでしょう」という。税込

みにしてもトヨタの社長の年俵は社員の 16 倍にすぎない。

(3) 一方でアメリカの投資銀行ゴールドマン・サックスの世界の従業員の平均年俵は 7000 万円に達するという。アメリカの社長の年俵は従業員年俵の 200 から 400 倍だという。200 倍としてもゴールドマン・サックスの場合、社長の年俵は 140 億円を下らない。トヨタの 8000 万円とゴールドマンの 140 億円。アメリカ人なら誰もが製造業より投資銀行を選ぶようになるだろう。

(4) かつて仰ぎ見た GM は 45 年間かかって優秀な人材を金融業にとられ続け、遂にトヨタに抜かれて経営破綻した。この間、日本の製造業は奥田氏のようなストイックな人物に率いられ、隆盛を誇るようになった。米議会にビック 3 首脳が支援を要請に来た際、全員が自家用ジェット機でやってきた。赤字脱却に懸命の日航社長は自らの年俵を 950 万円にカットしたと発表したため米誌で評判となった。

(5) この日本の指導者のストイックな精神はまさに武士道に由来するものだろう。

(6) 新渡戸の『武士道』は儒教を基礎に書いたといわれるが、『葉隠』は仏教を背景にしているという。『葉隠』は佐賀藩主の側近であった山本常朝^{じょうちよう いんとん}が隠遁したのちに、藩士の田代陣基^{つらもと}に語った談話集である。葉隠の真髄は「武士道とは死ぬことと見つけたり」の一節だ。この言葉は戦時中乱用されて、戦闘精神を鼓舞されたものだが、本来はいつ死んでも恥ずかしくないように生きよという永遠の生き方を説いたものだ。もちろん日本人にふさわしい倫理観を説いているが、人類に共通する倫理でもある。武士道は武家の家訓を集めて体系化されたものだから、藩主や家により若干の違いはあるが、山鹿素行によって集約されたのは、基本概念が共通していたということだろう。教典もないのにこれが暗黙に守られてきたのは引き継ぐ指導者が連綿と続いてきたからだ。

(7) 同じ資本主義、自由競争といっても、日本の社会は自ずと節度が保たれる。資本主義の“実験室”のようなアメリカ社会とは違う。

(8) 秘書が 3 人も逮捕され、自らも検察審査会で「起訴相当」と断ぜられた小沢一郎氏が「やましくない」と頑張っているのは「恥の文化」というものを知らないからだろう。

P209 ~ 212

[コメント]

日本人としての生き方を日本のリーダーとしての生き方も含め教え示し続けてくれる屋山氏。政治の専門家である政治家も、経営の専門家である企業経営者も、自らの専門家としての高度な教養を磨くために、また、自分を振り返るために「古典」から学ぶことが大切と考える。

- 2010 年 6 月 18 日 林明夫記 -